

花のチカラ 緑のココロ

2012年 春号

震災一年(念)発起

東日本大震災から一年が経ちました。残念ながら復興を感じるにはほど遠い現状です。

今年の2月に実施した「初級園芸福祉士認定試験」の記述問題の中に、趣味の園芸を活かして東北の人々に貢献するため受講したという方が数名いらっしゃいました。私たち園芸福祉普及協会は、被災された方々の幸せのため活動する責務があるし、期待されていると痛感しました。しかし、私たちは、被災された方と花を植えるだけでなく、育つ時間を共有してこそ園芸福祉と考えております。活動を継続させて行くためには、地域の園芸福祉士の活動と、全国の仲間の支援が不可欠です。ただ残念なことに、東北地方の園芸福祉士の人数は、他の地方に比べて多くはありません。比較的多い福島県の園芸福祉士は、自分たちも被災しており以前の「うつくしま園芸福祉の会」の団結パワーが発揮できる状況になっていません。また、活動しようにも、放射能に汚染され、畑や花壇はまだまだ除染されておらず、子供達が土にふれることは難しい状況にあります。



子供達も注目！きれいな花が咲くといいね

『福島に少しでも笑顔を届けたい』と三重県伊賀市の藤田さんが、昨年初冬に奈良県で開催された「飛鳥アートプロジェクト」で展示した球根を寄付してくださり、正月明け郡山の小学校に『Asuka 花壇』を作ってきました。



ハート型の Asuka 花壇

このように、園芸福祉活動を少しずつ再開して、関わる余裕ができた人から集まり、うつくしま園芸福祉の会の再結集を図っていくことにしました。第二弾として、5月からは「あづま総合運動公園内のハウス」で、未汚染の土を入れたプランターに親子で野菜づくりをする予定です。5月に夏野菜、8月に秋野菜を植える予定なので野菜や花の種を寄付していただける方は協会事務局：粕谷までご連絡ください。今回の企画で使えなくとも、東北地方の活動に使用させていただきます。協会は、身の丈にあった東北支援を今後も続けてまいります。

専務理事 粕谷芳則

「震災義援金付尾花沢すいか」のご紹介



昨年の8月にトライアルで一部の会員の方にご協力いただき、福島市の被災者避難所にスイカをプレゼントしました。その時お世話になった山形県尾花沢市の生産農家大貫さん(園芸福祉仲間)にお願いし、今年は全国に「震災義援金付尾花沢すいか」をご紹介します。値段や申し込み方法は夏前にホームページに掲載しますが、6～7kgのスイカを2玉1箱単位で7月下旬から8月上旬に発送予定です。是非ご協力のほどお願いいたします。

※義援金は、うつくしま園芸福祉の会の活動材料費に充てさせていただきます。

第11回園芸福祉シンポジウムのお誘い

同封のパンフレットの通り、6月9日に広島市国際会議場で園芸福祉シンポジウムが開催されます。夕食を兼ねた交流会や翌日には宮島ツアーも企画されておりますので、多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。また、シンポジウム前の11時から、当法人の定例総会も同会場で開催します。正会員以外の方のオブザーバー参加も大歓迎です。遠方からのご参加の場合は、航空代とホテルがセットになったパックがお得です。広島空港からは、バスセンター行きのリムジンバスに乗り、終点から徒歩で約15分くらいです。



お問い合わせは、パンフレット記載の開催事務局か、協会事務局まで！

欧州園芸福祉視察ツアーのお知らせ

前号で予告した欧州視察ツアーのパンフレットを同封いたしました。当初福祉拠点ベテルの視察を予定しておりましたが、諸事情によりクラインガルテン(ドイツの市民農園)に変更させていただきました。10年に一度の花の祭典フロリアードはもちろん、ドイツの世界遺産4箇所を含めた観光も充実させました。皆様の視察が楽しく、実りあるものにするため、協会から理事が1名同行し、責任をもってコーディネート致しますのでご参加くださいますようお願い申し上げます。



春におすすめの二冊

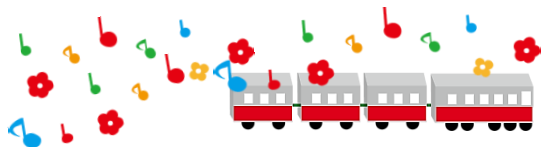


「グリーン・ケアの秘める力」近藤まなみ・兼坂さくら著 創森社 ISBN978-4-88340-221-2 ¥2,310

緑を活用した様々な療法や援助を総称してグリーン・ケアと言います。そこには、園芸福祉や園芸療法はもちろんのこと、動物療法、農業療法、森林浴や市民農園、森の幼稚園なども含まれます。この本では、日本国内のみならずヨーロッパの各地から、グリーン・ケアの魅力が余すことなく紹介されています。この春、グリーン・ケアの扉を開けてみませんか。

「きんや先生の園芸教室 はじめての寄せ植え」多田欣也著 農文協 ISBN978-4-540-07295-6 ¥1,300

東京近郊のとあるマンションに引っ越してきた新婚の緑山家。花には興味があるけど未経験の奥さん、めんどくさがりやのダンナと犬の桃花が、ガーデニングの伝道師こと「ひげのきんや先生」の手ほどきをうけ、はじめての寄せ植えに挑戦するお話。可愛らしく楽しいイラストとともに展開されていきます。寄せ植えが初めての方はもちろんのこと、経験のある方にも参考になること間違いなしの一冊です。



認定校訪問 静岡県立田方農業高等学校 事務局 粕谷

静岡県立田方農業高等学校、通称デンノウは、東海道線三島駅から温泉で有名な修善寺行きの私鉄で10分強の伊豆仁田駅前にある。今年1月下旬に、ライフデザイン科セラピーコース3年生18名の修了式に参加し、今年各自が自分で組んだ交流プログラムの発表を聞かせてもらいました。この学校の園芸福祉授業の特徴は、多岐にわたる施設と交流実習を行っていることにあります。まず学校内に静岡県立沼津特別支援学校の伊豆田方分校があり、定期的な交流を行っている他に、高齢者施設、重度の障害者施設、保育園などで交流活動を行っています。活動報告を聞いていて、おもしろいと思ったのは、赤紫蘇を育てシソジュースを作って飲む活動でも、対象者が高齢者の場合と園児の場合とでは園芸福祉的には別物になることです。懐かしい味のジュースを飲んで高校生に話しかける高齢者、はじめて飲む味のジュースのことを高校生から教わる園児たち。お年寄りと園児と一緒にシソジュースを飲んだらどうなるのだろうと想像してしまいました。



発表は電子黒板を使って



園芸福祉活動体験レポート 事務局 塚本

2012年3月2日(金)
れんげの里にて



この度、小田原にある潤生園在宅介護総合センター「れんげの里」を見学させて頂き、職員の秋山さんにお話を伺いました。春には辺り一面にれんげが咲き、富士山も見える自然豊かな場所に施設があります。“みんなで仲良く集う”という花言葉、大地を肥やすはたらき、そしてその土地の所有者であった方が近くを通るたびに「れんげがきれいに咲いてるねえ。」とよくおっしゃっていたことを忘れないよう、その方にも見守ってもらえるように「れんげの里」と名付けられたそうです。施設内は日の光がたくさん差し込み、部屋には花や木の名前がつけられていました。また食事をする机には欠かさず花を飾り、ご利用者様一人一人に合った椅子や足置きを用意するなど、名付け親でもある秋山さんの優しいこだわりがあふれていました。れんげの里では園芸福祉のグループ「はなの和」がオープン以来ボランティアを行っているそうです。ご利用者様が毎回の活動を楽しみにされていること、植物に触れ、自分で作ったものを持ち帰る喜びを感じ、「まだ咲いてるよ」と笑顔でスタッフに話される様子がとても嬉しいと秋山さんは話してくださいました。活動の中でも特に季節を感じられること、いつも同じスタッフが訪問し、一緒に活動をする仲間がいることがとても大切なのだそうです。

オープン翌年の夏、「ジャックと豆の木」のモデルにもなったナタマメについて書かれた新聞記事を



園芸福祉プログラム
ひな祭りアレンジメント

きっかけに、生命力が強く縁起物として知られるその大きなナタマメを譲り受け、それをたくさんの人に広めようと、毎年施設で緑のカーテンをつくり、収穫した豆を分けることで北は北海道、南は沖縄までその輪を広げているそうです。現在、施設の見学や視察は断ったことがなく、60近いボランティア団体を毎日のように受け入れているそうです。多くの方の支えや、その縁に感謝し、情報を発信していく事を大切にされているその姿勢が、自然とたくさんの人を引き寄せているのだと強く感じました。

コラム 市民農園万国記

～花の都で野菜づくり～

パリのセーヌ川沿いやシャンゼリゼ通りから離れた20区、2年前の7月に開催されたコミュニティガーデン(JARDIN PARTGÉ)のイベントに参加しました。パリ市は20の区で構成されており、文字通りここはパリの場末です。イベント前に区役所の人から聞いた話では、ここの住民は、アフリカ系・アラブ系・アジア系などからの移民が多く、宗教や習慣、言語が異なり、住民間のコミュニティが作れなかったそうです。そして、街中の空き地はゴミ捨て場に、空き屋は不法占拠や破壊され、犯罪の温床にもなっていたそうです。数年前にパリ市が政策として、利用予定のない空き地などを取得・借用し、地域住民組織による管理運営を条件に、地区住民が集まる場として提供することになりました。市内にはこのようなコミュニティスペースが50カ所以上あり、低所得者層が多く居住する区に多く作られているそうです。

当日のイベントは、20区内のコミュニティスペースを3カ所歩いて巡った後、音楽祭などが催された程度でしたが、見た3カ所は、屋上を農園区画に開放したビル、中層集合住宅の中庭を子ども達の環境・情操教育の場に活用、ビルの谷間の空き地を農園区画に活用するなど多様でしたが、花や野菜などのみどりだけは共通でした。宗教や言葉が違って、みどりを愛する気持ちは一緒でした。ここで生まれた人間関係は、地域に人種の枠を超えたコミュニティをもたらしているそうです。この日のイベントに、パリ市の副市長が半日も参加していたことから、行政の本気度が伺えた一日でした。次回は、ドイツのクラインガルテンを紹介させていただきます。(粕)



ビルの谷間に育つ野菜達

求む！各地・各人の活動情報

地域組織や個人の園芸福祉活動の情報を事務局宛にお送り下さい。また、下記ホームページのアドレスにご連絡ください。会報などはPDFファイルを添付してメールしていただければ皆様に広報させていただきます。

HP アドレス：<http://www.engeifukusi.com/>

mail アドレス：kyoukai@engeifukusi.com



正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

おすすめの一冊

ただ今、会報で紹介させていただくお勧めの本を募集しています。みなさんのおすすめの一冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！

編集後記

3月で震災から1年が経ち、今年は自分なりの、皆様なりの、今後の支援の仕方や関わり方を改めて考えさせられる年になるのではないのでしょうか。小さなことから一步一步…。

会報取材にあたり、素敵な出会いがありました。皆様にもこれからたくさんの素敵な出会いがありますように…！

塚本

NPO 法人日本園芸福祉普及協会発行

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58

Tel: 03-3266-0666 Fax: 03-3266-0667